

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	総合情報ビジネス科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	モバイルアプリケーション科	夜・通信	313.5 時間	160.0 時間	
	情報システム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	AIシステムエンジニア科	夜・通信	370.5 時間	240.0 時間	
	ネットワークシステム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	サイバーセキュリティ科	夜・通信	427.5 時間	240.0 時間	
	AIテクノロジーエンジニア科	夜・通信	313.5 時間	240.0 時間	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	370.5 時間	320.0 時間	
	建築科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	建築大工技能科	夜・通信	570.0 時間	160.0 時間	
	インテリア科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	電気工事科	夜・通信	370.5 時間	160.0 時間	
	機械CAD設計科	夜・通信	342.0 時間	160.0 時間	
	ゲームクリエイター科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	399.0 時間	240.0 時間	
	CGクリエイター科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	CG・VFX エンジニア科	夜・通信	285.0 時間	240.0 時間	
	Webクリエイター科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	デジタルデザイン科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	映像放送科	夜・通信	285.0 時間	160.0 時間	
専文化・教養課程	音響制作科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	デジタルミュージック科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・ホームページにて公表

<https://tcc.ac.jp/publish/syllabus-2025/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページにて公表

https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2025.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【現職】株式会社役員	2025.6.1 ～2029.5.31	経営計画の策定
非常勤	【元職】協同組合支所長	2025.6.1 ～2029.5.31	広報
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>① 教育課程編成委員会の設置 カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、副校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>・ ホームページにて公表 https://tcc.ac.jp/publish/syllabus-2025/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。 ・ 100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。 ・ 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価】

- ・出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。
- ・100点法で評価した評価点をもとに、以下の基準で5段階法（5～1）の評定を行う。

評定 5段階	評価点 100点法	評価基準	合否
5	90以上	到達すべき目標を十分に達成し卓越した成果をあげた	合格
4	80～89	到達すべき目標を十分に達成し優れた成果をあげた	
3	70～79	到達すべき目標をおおむね達成した	
2	60～69	到達すべき目標を最低限達成したが不十分な点もみられる	
1	59以下	到達すべき目標を達成していない	不合格

【履修時間・単位の認定】

- ・学則に定められた各科目について、その評定が合格の場合、履修時間及び単位を認定する。
- ・認定する履修時間及び単位数は、学則における各学科の教育課程に示された数とする。

【学習成績、出席状況の把握】

- ・100点法による評価点、5段階法による評定点、評定平均、成績ランク、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。
- ・各科目の5段階法による評定、成績ランク、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

- ・ホームページにて公表
<https://tcc.ac.jp/pdf/gpa.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・年間 800 時間以上履修していること。 ・毎年 3 月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。 <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。 ・2 年課程は 1,700 時間以上、3 年課程は 2,400 時間以上、4 年課程は 3,400 時間以上履修していること。 ・毎年 2 月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。 	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにて公表 https://tcc.ac.jp/pdf/sotsugyo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2024.pdf
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2024.pdf
財産目録	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2024.pdf
事業報告書	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2024.pdf
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2024.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	総合情報ビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1111.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1396.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2536.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100 人	86 人	3 人	4 人	4 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
3. 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																				
39 人 (100%)	2 人 (5.1%)	34 人 (87.2%)	3 人 (7.7%)																																				
(主な就職、業界等) 小松物産株式会社、日本住環境株式会社、相双五城信用組合、クスリのアオキ、ヤナセオートシステムズ																																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング（販売士）検定 3級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>38人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	39人	4人	ITパスポート試験	③	39人	2人	リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	29人	6人	日本語ワープロ検定 2級	③	29人	21人	文書デザイン検定 1級	③	30人	30人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	39人	29人	コミュニケーション検定 初級	③	39人	33人	Microsoft Office Specialist Excel	③	39人	38人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
日商簿記検定 3級	③	39人	4人																																				
ITパスポート試験	③	39人	2人																																				
リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	29人	6人																																				
日本語ワープロ検定 2級	③	29人	21人																																				
文書デザイン検定 1級	③	30人	30人																																				
ビジネス実務マナー検定 3級	③	39人	29人																																				
コミュニケーション検定 初級	③	39人	33人																																				
Microsoft Office Specialist Excel	③	39人	38人																																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																							
(備考)（任意記載事項） 第21回ビジネスプロデュースコンペティション アイディア賞受賞、MOS世界学生大会2024 日本代表選考 Excel部門入賞、文書デザインコンテスト 佳作入賞																																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	4 人	4.8 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイルアプリケーション科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1852.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	3 人	1 人	3 人	0 人	3 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)東北電子計算センター (株)総合キャリアオプション (株)アールエム 他IT系企業			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	3人	2人
基本情報技術者試験	②	3人	2人
ITパスポート	②	2人	1人
Webデザイナー検定 エキスパート	③	2人	2人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	2 人	18.2 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2166.0 単位時間／単位	1653.0 単位時間／単位	114.0 単位時間／単位	769.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2536.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		203 人	8 人	9 人	1 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
104 人 (100%)	0 人 (0%)	96 人 (92.3%)	8 人 (7.7%)																
(主な就職、業界等) 富士ソフト株式会社 サイバーコム株式会社 株式会社システナ 株式会社トイックス (TOiNX) CTCシステムマネジメント株式会社																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>86人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	86人	11人	応用情報技術者試験	②	18人	4人	情報セキュリティマネジメント試験	②	2人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	86人	11人																
応用情報技術者試験	②	18人	4人																
情報セキュリティマネジメント試験	②	2人	1人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
233 人	14 人	6 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	AIシステムエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2536.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1510.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			4075.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	74 人	3 人	11 人	2 人	13 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
26 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (92.3%)	2 人 (7.7%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社トインクス、サイバーコム株式会社、株式会社東北システムズ・サポート																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>25</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>12</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Oracle Certified Java Programmer, Bronze</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	25	18	応用情報技術者試験	②	12	1	Oracle Certified Java Programmer, Bronze	③	13	5	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	2	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	②	25	18																				
応用情報技術者試験	②	12	1																				
Oracle Certified Java Programmer, Bronze	③	13	5																				
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	2	1																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考)（任意記載事項）																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	3 人	3.6 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、進路変更（大学・専門学校）		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークシステム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	997.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2365.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	26 人	1 人	7 人	1 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 株式会社シー・エス・イー、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー等、ネットワーク運用・管理を行う企業。																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>14人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	情報セキュリティマネジメント試験	②	14人	2人	基本情報技術者試験	②	5人	2人	CompTIA IT Fundamentals	③	14人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
情報セキュリティマネジメント試験	②	14人	2人																
基本情報技術者試験	②	5人	2人																
CompTIA IT Fundamentals	③	14人	5人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	8 人	24.2 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	サイバーセキュリティ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2052.0 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3904.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		37 人	1 人	9 人	1 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (92.3%)	2 人 (7.7%)
(主な就職、業界等) サイバーコム株式会社、旭情報サービス株式会社、アイリスオーヤマ株式会社 株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社テクノプロ テクノプロ・IT社、株式会社エスピーエス 株式会社フラット			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	13人	12人
情報セキュリティマネジメント試験	②	24人	19人
応用情報技術者試験	③	12人	4人
SEA/J 基礎コース試験	③	18人	12人
SEA/J 応用マネジメントコース試験	③	12人	5人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49 人	1 人	2 %
(中途退学の主な理由) 家族転居		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	A Iテクノロジーエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3220.5 単位時間／単位	2707.5 単位時間／単位	285.0 単位時間／単位	940.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3933 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	31 人	2 人	6 人	5 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 株式会社ヒップ、株式会社コーワメックス、グローテック株式会社																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>画像処理エンジニア ベーシック</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AI検定	③	5人	5人	画像処理エンジニア ベーシック	③	5人	5人	基本情報技術者試験	②	5人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
AI検定	③	5人	5人																
画像処理エンジニア ベーシック	③	5人	5人																
基本情報技術者試験	②	5人	5人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	3 人	12 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、転学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	高度ITエンジニア科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4218.0 単位時間／単位	2850.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2394.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			5272.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		119 人	1 人	6 人	4 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
31 人 (100%)	0 人 (0%)	28 人 (90.3%)	3 人 (9.7%)																								
(主な就職、業界等) 株式会社トインクス、株式会社豆蔵ホールディングス、エリクソン・ジャパン株式会社、サイバーコム株式会社、株式会社オプロ、株式会社アルファシステムズ、株式会社ナナイロ、IT関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>31</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>18</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士</td> <td>②</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト</td> <td>②</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ネットワークスペシャリスト</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	31	18	応用情報技術者試験	②	18	7	情報処理安全確保支援士	②	6	2	データベーススペシャリスト	②	4	2	ネットワークスペシャリスト	②	3	3
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
基本情報技術者試験	②	31	18																								
応用情報技術者試験	②	18	7																								
情報処理安全確保支援士	②	6	2																								
データベーススペシャリスト	②	4	2																								
ネットワークスペシャリスト	②	3	3																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考)（任意記載事項） SEA/J CTF for Students 2024 オープンクラス 3位																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
123 人	5 人	4.1 %
(中途退学の主な理由) 病気・けが、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1054.5 単位時間／単位	256.5 単位時間／単位	1168.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2479.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	32 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
3. 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
16 人 (100%)	人 (%)	15 人 (93.8%)	1 人 (6.3%)												
(主な就職、業界等) (株) ライフ設計事務所 (株) s a i 総合企画 (株) TOM (株) 萩野工務店 (株) 千歳建設 山形建設 (株) サイト工業株式会社 (株) アクキュラホームなど建設業界															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報） <table border="1" data-bbox="194 775 963 943"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理技士1次試験</td> <td>③</td> <td>16</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD検定基礎</td> <td>③</td> <td>16</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理技士1次試験	③	16	4	2次元CAD検定基礎	③	16	12
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
2級建築施工管理技士1次試験	③	16	4												
2次元CAD検定基礎	③	16	12												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項) みやぎ建築未来賞2024 国土交通省東北地方整備局長賞受賞															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	1 人	3.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築大工技能科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	684.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	7 人	0 人	1 人	7 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評価は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)																																
(主な就職、業界等) (株) スモリ工業 (株) 智堂技建 (株) 大沼建築 サイト工業株式会社																																			
担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理技士1次試験</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD検定基礎</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3級建築大工技能士</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>自由研削といしの作業等特別教育</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>フルハーネス型墜落制止用器具特別教育</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>足場の組立て等の業務に係る特別教育</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理技士1次試験	③	4	0	2次元CAD検定基礎	③	4	3	3級建築大工技能士	③	4	4	丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育	③	4	4	自由研削といしの作業等特別教育	③	4	4	フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	③	4	4	足場の組立て等の業務に係る特別教育	③	4	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
2級建築施工管理技士1次試験	③	4	0																																
2次元CAD検定基礎	③	4	3																																
3級建築大工技能士	③	4	4																																
丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育	③	4	4																																
自由研削といしの作業等特別教育	③	4	4																																
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	③	4	4																																
足場の組立て等の業務に係る特別教育	③	4	4																																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																			
(備考) (任意記載事項)																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7 人	1 人	14.3 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	798.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	1083.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	34 人	0 人	1 人	7 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
13 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	0 人 (0%)																												
(主な就職、業界等) テクノ菱和、日沼工務店、東栄住宅、平和住宅情報センター、クラシタス、丹青ヒューマネット、阿部建設、渋谷木材店、大和リビング、松田建設、東和総合住宅、共同エンジニアリング 等																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験3級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定試験3級</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2級インテリア設計士</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級リビングスタイリスト	③	13	10	福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	0	0	福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	1	0	色彩士検定試験3級	③	13	12	インテリアコーディネーター	③	0	0	2級インテリア設計士	③	8	5
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
2級リビングスタイリスト	③	13	10																												
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	0	0																												
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	1	0																												
色彩士検定試験3級	③	13	12																												
インテリアコーディネーター	③	0	0																												
2級インテリア設計士	③	8	5																												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6 %
(中途退学の主な理由) 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工事科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1054.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1168.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	35 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 東北電力株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社、株式会社関電工、日本電設工業株式会社、株式会社ユアテック、東北電化工業株式会社、産電工業株式会社他 電気工事系企業			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）			
	種別	受験者数	合格者数
資格・検定名			
第一種電気工事士	②	20	19
第二種電気工事士	①	20	19
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	3 人	7.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	機械CAD設計科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		17 人	0 人	3 人	7 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
13 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (92.3%)	1 人 (7.7%)																								
(主な就職、業界等) 東北電力株式会社、アルプスアルパイン株式会社、矢崎部品株式会社、株式会社ビーエステクノ、株式会社メイテックフィールドーズ、SOLIZE株式会社、アベテクノシステム株式会社、ダイワ工業株式会社、トーテックアメニテ株式会社、株式会社デザインネットワーク、横手精工株式会社 その他機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験 2級</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験 1級(機械)</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>C Gクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験 2級	③	13	12	2次元CAD利用技術者試験 1級(機械)	③	12	9	C Gクリエイター検定ベーシック	③	12	10	Microsoft Office Specialist Excel	③	13	13	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	13	13
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験 2級	③	13	12																								
2次元CAD利用技術者試験 1級(機械)	③	12	9																								
C Gクリエイター検定ベーシック	③	12	10																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	13	13																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	13	13																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	1 人	3.8 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲームクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	655.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	2337.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3135 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		67 人	0 人	4 人	7 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
30 人 (100%)	1 人 (3.3%)	29 人 (96.7%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社ヨドバシカメラ、タニコー株式会社、株式会社ジーン、株式会社HIT															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報） <table border="1" data-bbox="253 772 949 931"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	30人	25人	色彩士検定3級	③	13人	10人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGエンジニア検定 ベーシック	③	30人	25人												
色彩士検定3級	③	13人	10人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	5 人	7.5 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、学業不振、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ゲームエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0 単位時間／単位	741.0	28.5	2508.0	0.0	0.0
			<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			3277.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	99 人	1 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
3. 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期末及び後期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
 - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
 - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29 人 (100%)	1 人 (3.4%)	25 人 (86.2%)	3 人 (10.3%)

(主な就職、業界等)

株式会社サイバーコム、株式会社東北システムズサポート、株式会社エスユーエス、株式会社ファンコーポレーション、酒田エス・エー・エス株式会社
他ゲーム業界、IT業界

(就職指導内容)

担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。
また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。

(主な学修成果（資格・検定等）)

(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	27	29
CGエンジニア検定 ベーシック	③	24	29
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	5	6

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。

- ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
- ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
- ③その他(民間検定等)

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
100 人	3 人	3 %

(中途退学の主な理由)

学校生活不適應、就職

(中退防止・中退者支援のための取組)

担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	CGクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	456.0 単位時間／単位	256.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		79 人	1 人	2 人	5 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
47 人 (100%)	1 人 (2.1%)	44 人 (93.6%)	2 人 (4.3%)								
(主な就職、業界等) 株式会社P. A. Works、CafeGroup株式会社、株式会社エイワース、株式会社コンセプトラボ、 株式会社IMAGICA GEEQ、株式会社 エム・ティー・ケー、株式会社トランジスタスタジオ											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>47人</td> <td>41人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定ベーシック	③	47人	41人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
CGクリエイター検定ベーシック	③	47人	41人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	5 人	5.5 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、学習意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	CG・VFXエンジニア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0 単位時間／単位	570.0 単位時間／単位	598.5 単位時間／単位	2109.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3277.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		14 人	0 人	2 人	5 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)			
<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。</p> <p>①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	Webクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	513.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1710.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		28 人	3 人	3 人	4 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他	
16 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (100%)	0 人 (0%)	
(主な就職、業界等) 株式会社あとらす二十一 株式会社アंक 等 Web・デザイン関連企業				
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。				
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	
Webデザイナー検定 ベーシック	③	16人	11人	
マルチメディア検定 ベーシック	③	16人	11人	
色彩士検定 3級	③	16人	10人	
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	16人	14人	
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	3 人	8.3 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	1966.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		26 人	0 人	1 人	4 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
15 人 (100%)	1 人 (6.7%)	12 人 (80%)	2 人 (13.3%)																								
(主な就職、業界等) 今家印刷株式会社、株式会社WeCAREER、株式会社アーリークロス																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	10人	CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	12人	色彩士検定	③	15人	12人	DTP検定ディレクション	③	15人	4人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	11人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
Webデザイナー検定ベーシック	③	15人	10人																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	15人	12人																								
色彩士検定	③	15人	12人																								
DTP検定ディレクション	③	15人	4人																								
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	15人	11人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人 東北映像製作社協会「映像コンテスト」応募リーフレットデザイン																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	4 人	10.3 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應、病気、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	映像放送科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1026.0 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	34 人	0 人	4 人	6 人	10 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
11 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (90.9%)	1 人 (9.1%)												
(主な就職、業界等) 株式会社白川プロ、株式会社富士巧芸社、株式会社太陽カンパニー、株式会社 lucky by lucky															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一級陸上特殊無線技士</td> <td>①</td> <td>11人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一級陸上特殊無線技士	①	11人	9人	映像音響処理技術者	③	11人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一級陸上特殊無線技士	①	11人	9人												
映像音響処理技術者	③	11人	3人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	2 人	5.6 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音響制作科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		34 人	0 人	3 人	4 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
12 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (75%)	3 人 (25%)												
(主な就職、業界等) 株式会社 東北共立 株式会社 メディアプロ東北															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和6年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Pro Tools技術認定試験</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	サウンドレコーディング技術認定試験	③	12	7	Pro Tools技術認定試験	③	12	6
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
サウンドレコーディング技術認定試験	③	12	7												
Pro Tools技術認定試験	③	12	6												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルミュージック科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	541.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1681.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	50 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

①教育課程編成委員会の設置

「教育課程編成委員会」は、各専門分野に知見のある企業や業界団体などが委員として参画し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成に組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性の動向や地域の産業振興の方向性、将来必要となる知識や技術などを分析し、職業教育に必要な授業科目の開設や実践的な授業方法の提案などを行い、企業などの要請を十分に反映させた教育課程の編成に貢献する。

②カリキュラムの編成から決定までの流れ

- 各学科の教員は教育課程について検討し、改善案を作成する。
- 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）では、現行の教育課程と「1」で提案された改善案を専門的かつ実践的な視点から検討し、新しい教育課程に必要な授業科目の開設や授業方法の改善などを策定する。
- 校長、副校長、教務部長によって編成される学内カリキュラム委員会では、「2」で提案された内容を含めて総合的に検討し、最終的なカリキュラムを決定する。

③カリキュラム編成書の作成

決定した教育課程をもとに、カリキュラム編成書を作成する。この書類は「学科概要書」「科目関連図」「シラバス」から構成される。

シラバスでは各科目の目標を明確にし、それらを達成するための教育方法を記述する。また、成績評価の基準についても明記する。

④カリキュラム編成書の更新・公開

カリキュラム編成書は学科ごとに作成し、学校ホームページにて公表する。

成績評価の基準・方法

（概要）

- 各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- 成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- 評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- 5段階評定は次の基準による。
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- 評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。

（1）履修すべき全科目の評定が合格していること。

（2）年間800時間以上履修していること。

但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。

・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。

・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

学修支援等

（概要）

- 自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- 課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- 成績不振の生徒に対して補習授業を実施する。
- 長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
16 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (62.5%)	6 人 (37.5%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社 東北共立 (株) ソフマップ (株) ユニバース (株) ダイユーエイト (株) 盛岡舞台総合研究所 日研 トータルソーシング(株)																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシート の書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定3級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>Pro Tools技術認定試験</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	MIDI検定3級	③	19人	11人	マルチメディア検定 ベーシック	③	19人	11人	Pro Tools技術認定試験	③	17人	10人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	16人	14人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
MIDI検定3級	③	19人	11人																				
マルチメディア検定 ベーシック	③	19人	11人																				
Pro Tools技術認定試験	③	17人	10人																				
サウンドレコーディング技術認定試験	③	16人	14人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	3 人	7.5 %
(中途退学の主な理由) 病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報ビジネス科	70,000 円	594,000 円	241,000 円	「その他」の欄に 計上した費用 1.施設設備費 2.教科書教材費 3.諸経費
情報システム科	70,000 円	660,000 円	271,000 円	
A I システムエンジニア科	70,000 円	660,000 円	271,000 円	
A I テクノロジーエンジニア科	70,000 円	684,000 円	276,000 円	
高度 I T エンジニア科	70,000 円	660,000 円	271,000 円	
ネットワークシステム科	70,000 円	660,000 円	271,000 円	
サイバーセキュリティ科	70,000 円	660,000 円	271,000 円	
ゲームクリエイター科	70,000 円	660,000 円	263,000 円	
ゲームエンジニア科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
C G クリエーター科	70,000 円	672,000 円	266,000 円	
W e b クリエーター科	70,000 円	642,000 円	296,000 円	
デジタルデザイン科	70,000 円	642,000 円	296,000 円	
映像放送科	70,000 円	684,000 円	271,000 円	
音響制作科	70,000 円	684,000 円	271,000 円	
デジタルミュージック科	70,000 円	678,000 円	261,000 円	
建築科	70,000 円	636,000 円	306,000 円	
インテリア科	70,000 円	624,000 円	306,000 円	
電気工事科	70,000 円	672,000 円	278,000 円	
機械C A D 設計科	70,000 円	636,000 円	296,000 円	
国際ビジネス科	70,000 円	576,000 円	213,000 円	
モバイルアプリケーション科	70,000 円	660,000 円	261,000 円	
建築大工技能科	70,000 円	672,000 円	306,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
下記修学支援は入学時のみ適用				
試験特待生制度 本校独自の学力試験の結果により免除 A0 入学生 50 名程度 試験特待生 S …40 万円 試験特待生 A …30 万円 試験特待生 B …20 万円 試験特待生 C …10 万円 推薦・一般入学生 25 名程度 試験特待生 A …30 万円 試験特待生 B …20 万円 試験特待生 C …10 万円				
資格特待生制度 入学時に本校基準資格を取得している者 資格特待生 S …40 万円 資格特待生 A …30 万円 資格特待生 B …20 万円 資格特待生 C …10 万円				
親族入学制度 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在学生の場合、7 万円免除				

B) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ ホームページにて公表 https://tcc.ac.jp/pdf/2024_evaluation_1.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(定数14名)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。</p> <p>学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の11項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。</p> <p>学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。</p> <p>今年度の学校関係者評価委員会(評価年度:2024年度)は、6月19日に開催し、評価結果は7月上旬に公表する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ミヤギテレビサービス	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県産業技術総合センター	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	業界団体
株式会社ヒノタマ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
スズキハイテック株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
卒業生	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
株式会社東北共立	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社アルゴグラフィックス	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	業界団体
株式会社リード・サイン	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員

	年)	
リコージャパン株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2 年)	企業等委員
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2 年)	業界団体
株式会社JC-21教育センター	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2 年)	企業等委員
株式会社サンフィールドソリューション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2 年)	企業等委員
公益財団法人画像情報教育振興協会	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1 年)	業界団体
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ホームページにて公表 		
2023年度学校関係者評価結果		
https://tcc.ac.jp/pdf/2023_evaluation_2.pdf		
2024年度学校関係者評価結果		
https://tcc.ac.jp/pdf/2024_evaluation_2.pdf		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<ul style="list-style-type: none"> 学校基本情報
https://tcc.ac.jp/
<ul style="list-style-type: none"> 刊行物：入学案内
資料請求 東北電子専門学校 より資料請求
電話：022-224-6501 より資料請求

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H104391010107
学校名 (〇〇大学 等)	東北電子専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		272人（ 11 ）人	271人（ 16 ）人	288人（ 19 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	137人	124人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	50人	54人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	43人	33人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	30人	44人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	12人	16人	
区分外（多子世帯）	0人	0人		
家計急変による 支援対象者（年間）				- 人（ 0 ）人
合計（年間）				291人（ 19 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	—
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	—	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—	0人	17人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	16人	13人	11人
計	20人	13人	23人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。